

# ナマステ



特定非営利活動法人  
自然文化誌研究会 会報誌

156号

2024年11月10日発行号

## 「冒険学校 まふゆのキャンプ」のご案内 12.27~29(2泊3日)

毎年恒例の「冒険学校まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あられるスタッフがみなさんの参加を待っています！！

日程：12月27日（金）～29日（日）

場所：清水バンガロー（小菅村のいつものキャンプ場）

宿泊：一人用テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校3年生～中学校3年生

定員：18名（先着順です）

参加費：会員¥28,000 非会員¥30,000

（奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などを含む）

申込み：ハガキ・LINE・E-mailに郵便番号・住所・

氏名（ふりがな）・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、事務局まで参加をお伝えください。



（現在、参加申し込み9名です）

＜国土緑化推進機構 令和6年度「緑と水の森林ファンド」助成事業です＞

## 「自然文化誌研究会 創設50周年」のご案内

前号でご案内しました、自然文化誌研究会の創設50周年記念の進捗状況についてご報告します。

現在、10名の企画委員により内容を検討しています。

日程については、2025年10月4日（土）を開催日としました。みなさん、ぜひ日程を空けておいてください。

開催場所は、東京学芸大学附属環境教育環境教育研究センター（農園）です。

内容については、「冒険探検」をテーマに50年の歴史を振り返り、未来へのメッセージを考えるような、もう少し緩くするか、夕方からは宴会を予定しており、農園内にテント泊での宿泊も可能になるように調整しています。

また、1995年に発行した20周年記念誌「らぞう」に引き続き、50周年誌の発行も予定しています。その際、個人プロフィール作成の依頼をお願いする事も考えています。

50年の歴史の中で、小金井市、大滝村、小菅村、北海道二風谷、沖縄、タイ、中央アジアをはじめとした多くのフィールドと、冒険探検部、ちえのわ農学校などたくさんのメンバーと活動を共にしてきました。みなさまよろしくお祈りします。

# 「INCH(祭り)ライブ2024」開催しました 10.5

自然文化誌研究会会員 佐々木 正久 (youtuber の卵・茨城県在住)

10月5日午後、いつものキャンプ場。小雨の中、B棟に音響機器や照明機材、楽器、譜面台などが運び込まれています。14年目のINCHまつり(ライブ)の準備です。コロナで何年かの中止はありましたが、昨年から再開されました。キャンプ場は人里から離れているので、少々の音量では(結構な大音量でも)近所迷惑にはなりません。

午後4時、主催者の代表理事の中込卓男さん(以下、中込メさん)の歌でライブの開始です。最初の歌は谷川俊太郎さんの詩から。自分が40歳のときに30歳違う君と生きている幸せを歌ったもので、70歳になっても一緒にあくびをしたいというものです。中込メさんも40歳の時に娘さんが10歳。もう数年で70歳になるということでその思いをこめてました。

次はトランペット3重奏(トランペット集団「奏」の有志)です。トランペットだけのアンサンブルは結構珍しいです。7~8人が所属しているそうですが、今日は3人での参加です。ラピュタの「鳩と少年」で始まり、「アメージンググレース」や「アイガットリズム」と多様な曲の演奏が続きます。

次は「二人チョークス」、中込メさん再び登場です。歌もとても上手ですが、ハーモニカで「ジョージアオンマイマインド(我が心のジョージア)」や「スマイル」など素晴らしい演奏も披露してくれました。後で聞いた話ですが、お客のアンコールが早すぎて(用意した曲がまだあるのにアンコールがかり)、1曲減らしたということです。こんなことは初めてだと言っていたのですが、演奏者とお客の距離の近さ故ですね。

次は自然文化誌研究会理事の自称キムタク(鈴木英雄さん)の弾き語りです。最初の曲は「防人の歌(さだまさし)」です。歌える人は一緒にということなので、つい参加しましたが一度も一緒に歌ったことがないのにデュエットは無謀です。歌い出しのタイミングが合わず、ちょっと迷惑をかけてしまいました。他にも中島みゆきの「世情」、水越恵子の「Too far away」など60歳代には懐かしい1970年代後半のフォークソングを披露してくれました。キムタクはベースで他のバンドにも参加しています。

続いて「ふるるでるる」です。今回最大の5人のバンドです。三線とトランペットが入るのが珍しいです。1曲目はBEGINの「海の声」、沖縄の香りのする歌です。今年大ヒットした虎の翼の「さよならまたいつか!」など朝ドラのテーマソングなどを披露してくれました。ということで第一部は2時間ほどで終了です。

夕食の後、8時ごろから第二部です。歌いたい曲を言うと、ギターなどが演奏してくれる生演奏でのカラオケです。第二部がやりたくて参加している人も多いようです。夕ご飯でお酒も入っているので大騒ぎです。こんな楽しいライブは見たことがありません。私は歌いまくって満足して早々と寝てしまったのですが、夜半までみんなで歌いまくっていたそうです。写真は第二部の様子です。

ライブ(第一部のダイジェスト)をyoutubeにアップしました。→

<https://youtu.be/H5R8z6SADvQ>



追伸 来年はINCHが50周年(INCHまつりは15周年)を迎えるので、イベントが開かれます。詳細はこれからですが、ぜひご参加ください。 詳細はHP <http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html>



# 「タイ環境学習キャンプ報告」 8.17~25(8泊9日)

中込貴芳（ごみさん・自然文化誌研究会副代表理事）（以下、中込ミと記載）

今年のタイ環境学習キャンプは8月17日(土)~25日(日)に実施されました。参加者は総勢8名と多くの応募がありました。今回のキャンプの大まかな行程は、以下の通りになります。

17日 成田空港からバンコク（ラジャバト・プラナコン大学のグラウンド・ビューホテルに宿泊）

18日 バンコクからバンライのパンダキャンプへ（パンダキャンプの近くの民宿に宿泊）

途中サムチェク百年市場を訪問 パンダキャンプのエッセンシャルオイルの研究等の取り組みの見学

19日 ワークショップ（パンダキャンプの近くの民宿に宿泊）

午前、パネルシアター、目の仕組みの工作、日本のラジオ体操(子供向け)

午後、折り紙(子供向け)、日本のハーブ酒やお茶の紹介(大人向け)

20日 バンライからファイ・カ・ケン野生生物保護区へ(保護区内の宿泊施設に宿泊)

野生動物観察塔にて、野生の牛、クジャク等の観察 野生生物保護区近郊の河川の堤でアジアゾウの観察

21日 ファイ・カ・ケン野生生物保護区滞在(保護区内の宿泊施設に宿泊)

保護区内のトレイルで植物や動物の観察 野生動物保護施設でトラやマレーグマ、ヒョウなどを観察

野生生物保護区近郊の河川の堤でアジアゾウの観察

22日 ファイ・カ・ケン野生生物保護区からバンライへ(パンダキャンプの近くの民宿に宿泊)

タイマッサージ お別れのパーティー

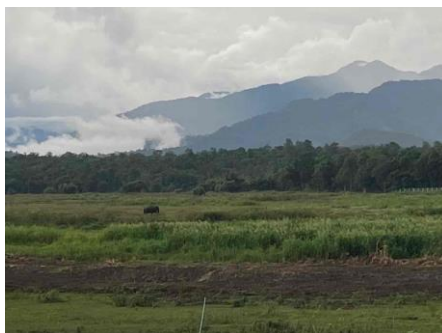
23日 バンライからバンコク(ラジャバト・プラナコン大学のグラウンド・ビューホテルに宿泊)

タイの先生とタワンデー ジャーマン ブリュワリーでショーを見ながら タワービールで乾杯

24日 バンコクから成田へ

1日自由行動、スワンナプーム空港へ

25日 午前成田空港に到着



今回参加者にキャンプの感想を書いてもらったので紹介します。

## Kさん

この度は大変お世話になりました。初めてのタイ旅行、しかもこの年齢(よわい)で初めて経験する事ばかりで面くらいましたが、本当に楽しかった。HKK キャンプ場でのタイ式トイレに度肝を抜かれ、水シャワーに耐え、タランチュラを勇気を振り絞って食しました。でもそれ以上に野生動植物の観察は感動的で、三度の食事の美味しさが胃と心に刻まれています。パンダキャンプでラジオ体操を子ども達の前で披露できたのも嬉しかった。中込ミさん達が長年積み重ねていらした、タイ・日本交流の旅に参加させて頂け幸せな9日間でした。ありがとうございました。

## Nさん

パンダキャンプや国立公園は何回、訪問しても新しい発見があります。特にタランチュラは初食でしたし、国立公園で野生動物をこんなに身近に感じたのも初でした。夕暮れの道端で出会ったゾウ、保護動物が暮らす施設内では迫力あるトラ。おもしろかったです。一方で、楽しみにしていたトッケイの鳴き声は聞けず、残念でした。生で本物を拝聴したいです。毎晩、たくさんビールを飲ませていただきました。幸せです。最後になりましたが、無事に帰国できましたこと、中込ミさんをはじめ参加された皆さんにお礼申し上げます。



### 〇さん

皆様この度は大変お世話になりました。私にとって夢のような9日間でした。タイに行ったのは初めてではありませんが、パンダキャンプは初体験。国内でさえキャンプ経験のない私が、果たして皆さんに付いて行けるのか、正直最初は不安でいっぱいでした。でも参加できて本当に良かったです。一番心臓が高鳴ったのは、パンダキャンプに付いてから、いきなり裸足で川を渡った時です。へっぴり腰で第三者が見たら思わず笑っちゃう姿だったと思います。(サトミさんあの時肩を👉) そんなこんなで貴重な経験をいっぱいさせてもらいました。何より大自然の中で、知らなかった草花や動物に出会えたのが一番良かったです。三度の食事も絶品でした。このような素晴らしい旅行を、準備して下さった中込みさんはじめ親切なタイの方々、深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございましたm(\_ \_)m コップンカー👉



### 横山緑さん (自然文化誌研究会 理事)

今年は、高校時代の友達二人を誘っての参加でした。昨年は、コロナ禍を経てのタイキャンプで、4人でしたが、今年は、子供含めて8人の日本からの参加者、それにタイ在住の若林夫妻と子供一人と総勢11人のメンバーが集まりました。パンダキャンプでの思い出の一つは、地元の小学校の子どもたちを招いてのワークショップです。日本のラジオ体操を一緒にやりました。ラジオ体操

の音楽がパンダキャンプ場で鳴り響く中、子どもが身体をそった時に出たため息のような声を聞いて、身体硬いんじゃないの・・・?!なんて思ったりもしました。私は、パネルシアターを子供達に見せましたが、今年は、タイの昔話をみてもらいました。「ワニの肝」という話。子供達がどんな感想を持ったか聞いてみれば良かったなと思ってます。野生保護区でキャンプは、最高でした。いろいろな動物を見ることができましたが、野生の象が森の茂みにいたのを車中から見た時は、本当に興奮しました。今年は、野鳥の観察も慣れて、双眼鏡で鳥を探すことがてき、これも楽しい思い出です。最後になりますが、パンダキャンプの食事は、最高です。捕獲した真っ黒で大きなタランチュラというクモを触っただけでも、すごい体験だったのに、まさか、素揚げにして食べるとは夢にも思いませんでした。これが、美味しかったです。私は、卵の入った腹の部分を食べました。毎食、タイの食材をふんだんに使った家庭料理を50種類くらい食べたとします。パンダキャンプ場の竹林に生えていた筍の炒め物は、絶品でした。いやいや、思い出だけで、お腹がなりそうです。よく笑い、よく食べ、よく活動し、私にとって忘れられない思い出深いタイキャンプとなりました。

中心になってくれた中込みさん、参加してくれたみなさん、ありがとうございました!



## 「記憶は5歳から」

黒澤東江（はるちゃん・小菅村在住）と竹晴（たけはる・5歳児・小菅村保育所）

保育士をしている叔母に「記憶は5歳から残るのよ」と聞いてから、5歳になったらなにか記憶に残るようなインパクトのあることをしたいなと思っていた。

5歳のお誕生日を前に、一緒にタイに行くのはどうだろうと思い立った。というのも、ごみさんと緑さんから「タイには竹ちゃんと同じくらいの男の子がいてとっても楽しかったよ」と聞いていたから。同じパーティにちびっ子がいるなら絶対楽しいはず！と思って本人に聞いてみた。

初めは「タイ?」「どこにあるの?」的な返答だったと思う。だけど、飛行機に乗って行くこと、日本から海外に行くことなどを話すとだんだん乗り気になってきた、!!

パスポートを取りに甲府へ行ったときも、受付のお姉さんに「ぼくはタイに行くんだ」と申告していた。だんだん彼の中でタイに行くことが大きくなってきている様子が見えた。

ある日、木俣さんから余っていたタイのお金とタイ語の本をいただいた。コインが大好きな竹晴はこれが何パーツで、これが何パーツ、と言いながら思いを馳せているようだった。挨拶の練習もはじめていて、たまにYouTubeでタイの国がどんな様子か見たりした。



そして迎えた当日。朝早くから家を出て成田空港へ。これから乗る飛行機を見ながら楽しみだね！と繰り返していた。一緒に行くメンバーとすぐに仲良くなり、これから始まる旅がとても楽しみになった。

タイに着いた翌朝、噂のキーリー（タイでホスト役のエーさん息子さん）が登場。よくよく聞いてみると同い年だったことが判明。すぐに仲良くなってとても微笑ましかった。一緒に川で泳いだこと、同じベッドで寝たこと、大きな木を見たこと、全部が彼の糧になっている。

移動中の車内もとても賑やかで（大人は大変ですが）、常に笑っていた旅だった。

子どもを連れての海外は初めてだったけど、このメンバーならいける！という確信があったし、想像以上に楽しい時間だった。ご迷惑ばかりおかけした部分は否めないけれど、みんな優しく救われました。何より竹晴がみんなのことを大好きでまた会いたいと言っていたのが印象的です。ほんとに全員菩薩かと思った（今でも思っている）。

帰国してしばらく経った頃、竹晴が夏休みの思い出の絵を保育所で書いた。キーリーと一緒にタイの川で泳いだ絵だった。川の色は茶色くて、ぼくは水中メガネをしてたくさん泳いだんだ！と教えてくれました、と先生が言っていた。覚えていてくれたら嬉しいけれど、わたしがちゃんと覚えておくから忘れてもいいよ。また行こうね！



## 『INCHの楽しい仲間たち』 vol.14 その2

## 夏のボーナスの終わりに、九州で温泉旅行をしようの（後編）

鈴木風馬（自然文化誌研究会運営委員）

## 行程

2日目 2023.9.17

内牧温泉→阿蘇山草千里→阿蘇→宮地→豊後竹田→大分→別府

3日目 2023.9.18

別府→鉄輪温泉→地獄めぐり→別府→博多→福岡空港→羽田空港→品川→大宮→岩槻

大分行き普通列車は乗り換え客を乗せ、定刻に豊後竹田駅を発車した。今度は真っ赤な気動車 2 両編成で、クロスシートの半分が埋まるくらいであった。列車は阿蘇外輪山から流れ出る幾つもの谷筋をトンネルでハシゴしつつ大分市へ向けて下る。緒方の手前から大野川が現れ、何度か渡りながら走る。三重町は豊後大野市の中心で、朝夕には区間運転もあり、3 線ある大きな駅であった。犬飼を出るとすぐ大分市に入り、中判田からは立ち客も出始め、大分市の近郊区間となる。大窪氏はお疲れのようで、居眠りをしている。快適な汽車の中で日向ぼっこをしながらとうとうと眠るのが至福だと思う。いったい大学はどこにあるんだと言いたくなる大分大学前駅をすぎると、市街地に入って 15:08、大分駅に着いた。20 分ほど待ち時間があるので、お土産を物色しようとして改札を出る。ピッカピカの高架駅で、駅ビルはショッピングモール「アミュプラザ大分」が入っていて、賑わっていた。駅前広場では屋台が出ていた。別府でも買えるので別府へ向かうことにし、15:27 発亀川行き普通列車で別府へ向かう。3 両編成で、クロスシートだが座席を撤去してあるようだ。西大分を出ると、国道 10 号別大国道と並行して別府湾が広がる。対岸の国東半島もなんとか見えた。私も大窪氏も海とは縁遠いため、注目する。途中水族館が見えたが、駐車場満杯で繁盛しているようだった。



写真 16 大分駅と大分～別府間の車窓（かんたん湾）

写真 17 大陸ラーメンさんと別府温麺

東別府 から別府市に入り、15:39 に近代的な高架の別府駅に着いた。今日の宿は駅前の「別府シーウェーブホテル」である。チェックインして荷物を置き、買い物に出かける。駅の土産物屋を覗いて買うものの目星をつけ、別大国道沿いのゆめタウンへ向かう。旅行に行った時はこういう地元の普段使いのスーパーマーケットで地域限定の商品を探すのが面白いのだ。九州の場合は、醤油が 1 番特徴的なので、大窪氏も私も醤油を購入した。お土産向けの高級品とは異なり、地元の普段使い向けなので値段も安くおすすめである。買い出しの後、商店街のラーメン店「大陸ラーメン」さんで温麺をいただく。大窪氏は冷麺を注文した。別府は冷麺も有名らしく、盛岡とはまた違う蕎麦のような麺の冷麺は美味しかった。

大窪氏は先にホテルに戻り、駅前の電器店に入る。今朝バンドが外れてしまった時計を買い替えるため探したのだが、取り扱いがなく断念。駅高架下の時計店に行くと、ほぼ同じものが売っていたので購入。現場でも腕時計があると便利なので、いつも激安の時計を壊れるまで使い込むのだが、今回も買ってよかった。17 時半頃にホテルに戻り、夕飯に出かける前に風呂を浴びる。別府は全市内どこでも水脈さえ当てれば温泉という立地なので、もちろん温泉である。熱めの湯で長湯はせずさっと浴びて部屋に戻る。19 時過ぎにホテルを出て、鴨吸いが名物の居酒屋「チョロ松」さんへ。運良く席が空いていて、すんなり入ることができた。ここでは紅茶梅酒やレモンティーリキュールのお酒と合わせてかんぱちのりゅうきゅう、地鶏のたたき、鴨吸い、豚天をいただいた。鴨吸いは出汁が最高に美味く、りゅうきゅうも地鶏も豚天もお酒が進む。軽い味わいのレモンティーリキュ

ールと紅茶の風味を感じる梅酒がとてもおいしかった。

20時過ぎに退店し、次の店を探して彷徨うがどこも満席であった。21時頃に2軒目として「夢倉庫」さんに入店。ここでは別府名物のとり天と再びりゅうきゅうを頼み、カボスのジュースと酎ハイで乾杯。ここで大窪氏が「仕事をその日にしたとしても休日だと思えた時休日」などと宣うので「休日には仕事はしてはいかん」と議論した。22時前にホテルに戻り、大窪氏を置いて隣の「別府ステーションホテル」の風呂に入りに行く。グループホテルの風呂は入り放題とのことなので、ありがたい。こちらもかなり熱めの風呂で、泉質は少し違うようだ。22時半頃に帰り、荷物を整理して就寝。

### 3日目 2023.9.18

別府駅西口 9:15→(亀の井バス7系統別府リハビリセンター行き)→9:31 鉄輪→地獄温泉ミュージアム→海地獄→鬼石坊主地獄→ひょうたん温泉→鉄輪 14:13→(亀の井バス7系統別府駅西口行き)→14:29 別府駅西口→別府駅 14:53→(日豊本線特急ソニック38号博多行き)→16:49 博多 16:58→(福岡市地下鉄空港線福岡空港行き)→17:03 福岡空港駅→福岡空港 19:15→(ANA268 便羽田空港行き)→21:00 羽田空港→羽田空港駅(京急)21:30→(京急空港線快特印幡日本医大行き)→21:46 品川 21:50→(JR 上野東京ライン高崎行き)→22:30 大宮 22:40→(東武野田線柏行)→22:51 岩槻

夜中に何度か目が覚めたが、6時頃に日が昇ると完全に覚醒した。7時過ぎに朝風呂に行き、7時50分頃から朝食会場へ。和洋バイキング形式で、鳥飯やぎょろっけなど大分産のものを使った料理もあった。8時半頃に部屋に戻り、出発までのんびりする。9時頃に部屋を出て、チェックアウトし駅へ向かう。コインロッカーに荷物を預けて、西口③のバス乗り場から亀の井バスのリハビリセンター行きに乗る。9:15に発車し、市街地を走る。別府は坂の街らしく、山側の温泉まで登り坂が続く。「原」はばる、「火売町」はほのめちょうなど、読み方を間違えそうな停留所も多い。9:31、鉄輪温泉に着いた。まずは地獄温泉ミュージアムに向かう。2022年12月にできたばかりの博物館で、別府に降った雨が温泉になるまでを学べる体験型の博物館であった。1100円と入場料は高めだが、ピカピカで凝っていたので納得である。

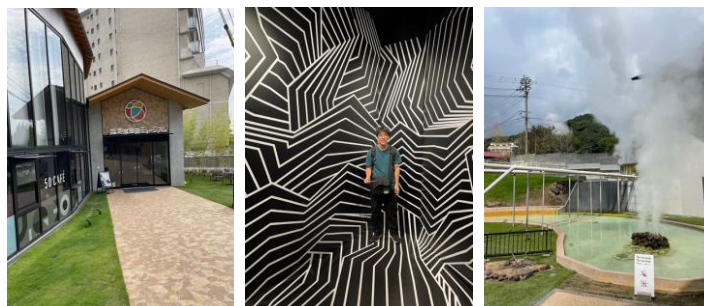


写真19 地獄温泉ミュージアムと中で迷った大窪氏、裏庭の地獄

50分ほどで辞して海地獄へ向け坂を登る。観光客が集まる時間帯で、石畳の商店街は賑わっていた。海地獄は青い色の池から噴煙が立ち上る地獄で、実に美しかった。温泉たまごのカゴも洗めてあった。売店の2階が展示になっていて、ここでも地獄地帯のでき方を知ることができた。続いて隣の鬼石坊主地獄へ。ここは温泉施設と併設のようで受付の脇に温泉の入り口があった。灰色の池から泥が湧き出していて、美しい円を描いていた。温度は98度とあった。実際中は暑く、湿度も高いので過酷な環境が地獄と準えられるのも納得である。



写真20 海地獄と鬼石坊主地獄

石畳を下って、かまど地獄へ向かう。ここは小さいが6個の地獄がまとまっていて、それぞれ色も温度も湧き方も湯なのか泥なのかも違うという面白いところであった。こんなにそばにあってかなり違う色の湧き方をされていて、面白かった。



写真21 かまど地獄

写真22 ひょうたん温泉にて

11:30 になったが、朝食を食べすぎてお腹が空かないので温泉に入ることにし、坂を下ってひょうたん温泉に入る。940円だが広く、ぬる湯から熱めの湯までと、滝湯、むし湯、露天も揃っていた。ホテルの温泉とは泉質が異なり、こちらは塩化物泉、ホテルは重曹泉とのこと。大窪氏も長湯するくらいにはいい風呂であった。上がってから日田梨のスムージーをいただき、昼食の代わりにする。さっぱりした日田梨と氷が冷たく風呂上がりには最高であった。

13:20 頃に出て、そばの「地獄原・ひょうたん温泉前」から 13:31 の大分交通のバスで別府駅へ戻る。少し遅れて 14:00 頃に駅に到着。荷物を受け取り、切符を受け取り、お土産を購入して 14:19 発特急ソニック 36 号博多行きに乗り込む。885 系「白いソニック」6 両編成で、指定席は満席とのこと。別府からの自由席はまだまだ余裕があったので着席。すぐに検札が来て、自由席だが座席を確認していた。杵築、宇佐、柳ヶ浦、中津とそこそこの乗車でほぼ席が埋まった。国東半島の付け根はカーブが多いので、振り子式車両の性能を遺憾なく発揮し最高速度 120km/h で駆け抜けてゆく。山国川を渡って福岡県に入ると車掌さんが 2 人に増え、各々確認して回っていた。小倉駅では進行方向が変わり、座席の向きを変えて座り直す。客も入れ替わり、検札がまた忙しく動く。我々も再びの検札を受けた。車内で ANA から通知が来ており、機材到着遅れのため 20 分遅れるとのこと。余裕ができたなと思いながら鹿児島本線を快走して 16:28、博多駅に到着。



写真23 別府駅にて 乗車したソニック（左）と停車していたゆふいんの森（右）



写真24 博多ラーメン



博多駅では福さ屋へ行き、明太子を購入。駅ビルのラーメン店「元祖博多だるま」さんで夕食に豚骨ラーメンをいただく。九州最後の飯はやはりこれが鉄板だろう。バリカタで頼んだが正解で、歯応えある麺がスープとからみ旨い。回転も早くていい店であった。

地下鉄のホームへ移動し、17:35 発福岡空港行きで空港へ向かう。空港には 17:40 に到着し、オンラインチェックインを試してみることにする。案内板を見るとなんと乗る予定の 19:15 発 ANA268 便羽田行きは 45 分遅れの 20 時ちょうど発予定に変わっていた。することもないので保安検査をくぐり、搭乗口で待つ。思わぬ待ちぼうけで暇になってしまい、落ち着かない。大窪氏は悠々とゲームをしているが、私はお散歩に出かける。搭乗口 12 番から 1 番まで歩き、戻ってきてもお暇である。19:15 頃ようやく折り返しの便が到着し、降機。19:40 から搭乗案内とのことで、搭乗口には列ができていたが、我々の搭乗順は最後の方なので、椅子から離れず待つ。19:50 を過ぎては始まらないが、満席の飛行機の客を 10 分で捌き切れるのだろうか？20 時を過ぎてようやく搭乗開始となり、列に並ぶ。この便も満席のようだ。これではさらに 20 分ほど遅れるのは否めないだろうなと思いつつ、22 時には羽田に着くだろうと予想して搭乗する。気楽な大窪氏が羨ましい。機種は行きと同じ B787 らしいが、情報画面はなく、背面にはテーブルのみであった。20:15、扉が閉まったとの放送があり、ようやく動き出しそうだ。20:18、飛行機は動き出した。1 時間 3 分遅れての出発となった。偏西風がどのくらい巻いてくれるか楽しみだ。しばらくエプロンで待機したのに、滑走路へ移動する。20:30、離陸するとの放送が流れ、エンジンがフルパワーとなり加速開始、離陸した。この離陸の瞬間の浮き上がる感覚はやはりあまり好ましいものではない。新幹線や特急も好んで乗るわけではないが、飛行機や高速バスよりはマシである。やはり私は定期的に外気が直接入ってこないのがダメらしい。宮脇俊三氏の「インド鉄道紀行」の続きを読んでいると、21:20 頃から高度を下げ始めた。放送によると、羽田は混雑しているらしく、ゲートへのご案内は 22:05 とのこと。大宮からの野田線最終に間に合うかが心配だが、迎えは頼んであるのでなんとかなるだろう。企画者としては、大窪氏の帰宅もケアしなければならない。機内 Wi-Fi に接続して時刻表を調べ、連絡しておく。家に帰るまでが旅行である。そういう私は明日新潟に帰るのだが、21:40 頃になり、シートベルト着用サインがついた。順調に高度を下げていようだが、外が暗いのと通路側の席なのでわからない。インド鉄道紀行を読み終え、鞆にしまっておく。着陸の瞬間もあまり好きではないし、大きく揺れるのがわかっているので、外の景色で降りる瞬間がわかると良いのだが、今回はそうもいかない。だが、21:53 になって外に東京の夜景が見え、まもなく地上であることがわかった。どの滑走路に降りるかでターミナルまでの距離が変わるので、そこがポイントである。D 滑走路に降りると 20 分くらいは走らねばならない。21:56、羽田空港に着陸した。揺れは少なく滑らかなランディングであった。どうやら B 滑走路に降りたらしく、ターミナルまではすぐに行ってくれそうだ。22:07、ゲートが接続され降機。次の京急は 22:17 の★ 急行泉岳寺行きである。走れば間に合うと判断し、ダッシュで京急のホームへ向かう。発車 2 分前に改札を抜け、なんとか飛び乗った。20 分ほど走り、22:39 に品川着。大窪氏と品川で別れ、次なる旅を誓い合い見送る。品川からは JR で大宮へ、野田線の最終 2 本前に乗り、眠気に耐えながら 0:13 に岩槻に到着。実家泊。

翌日、新幹線で新潟に戻り、旅は終わった。

おわりに

今回は大窪氏のリクエストに合わせ、阿蘇と別府という九州の大観光地を周遊する旅を企画した。費用的には 10~12 万円ほどかかった贅沢な旅になってしまったが、いつもの格安鈍行旅行とはまた違う旅を楽しめた。大窪氏も満足いただいたようで、旅行代理店兼ガイド兼運転手としての冥利に尽きる。次回の旅はどこへ行こうか？

(事務局より)

鈴木風馬さんは、赤ん坊のころから自然文化誌研究会に関り、参加者~学生スタッフを経て、現在は社会人。冒険学校ではスタッフの送迎をはじめとした裏方の仕事を務め、現在の住まいである新潟県から望遠鏡を担いで小菅入りしています。

今回「冒険学校まふゆのキャンプ」では、初の村長を務めることになりました。



## 自然文化誌研究会理事 西村俊

残暑が長い夏がやっと終わり秋の訪れを感じられるようになりました。山々は色づき、散策に出かけるには良い季節となりました。小菅村ではキノコ狩りも楽しんでいるようです。

植物と人々の博物館は、社会的共通文化財である植物標本・民具・文献や書籍の資料収蔵・整理を続けています。現在所蔵する資料をより広くご利用していただけるように、森とむらの図書室 (<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>) の蔵書リストと閲覧書架も整理・充実を図っています。原沢文庫、塚原文庫、西川文庫、木俣文庫、山田文庫、石川文庫、若林文庫、それぞれ特徴ある寄贈書をぜひご活用ください。また、社会的な共通文化財としてこれらの資料をどのように公共の場へ移管し、広く公開・利用頂けるのか、一緒にご議論いただければ嬉しいです。引き続き、資料整理のお手伝い頂ける方を募集します。資料など閲覧したい方、手伝い頂ける方、ご連絡いただければ日程調整してご案内いたします。担当 木俣 ([kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp))



【原沢文庫の整理状況】

※以下のHP上では電子書籍や主な海外フィールド調査ノートをデータベース化して公開しています。

公式 HP：植物と人々の博物館

<http://www.ppmusee.org/>

民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録

<https://www.milletimplic.net/>

今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しましたが、担当者の疲労も蓄積しており、佐野川での雑穀栽培講習会は今年で最後になる予定です。これまでご参加・ご協力ありがとうございました。



【宮本茶園の雑穀見本園（9月）】

9月23日に伝統知伝承顧問として本会を長く支えて頂いてきた中川智さん（上野原市西原）が亡くなりました。長年、本会の活動を支えて頂きました。ご冥福をお祈りします。



【中川智さん・仁さん兄弟と雑穀（2023年）】

沖縄県竹富島で在来の五穀の復活を目指した活動が行われています（沖縄雑穀生産者組合）。木俣美樹男研究員が1975年頃に収集した在来種の粟が現地に帰り、半世紀ぶりに穂をつけたようです（仲介：玉木陸斗さん）。新しい継承の歩みがまた一つ再開されたようです。

民族植物学ノート第18号は2025年3月末に発行を予定しています。年内にご寄稿ください。

## 冒険学校と現代教育を問う—教育哲学の地平から—

宮坂朋彦（みややん・自然文化誌研究会運営委員）

初対面の人から「仕事は何をしてるんですか」と聞かれたとき、私は大抵、二段構えで答えることになる。第一に、「まだ院生なんです。最近ちょっとずつ、大学で教員養成の仕事が始まりましたが...」と答える。そうすると「へえ、何の研究してるの」という第二の問いが出てくるわけだが、ここから先がややこしい。なぜなら、私の研究領域は「教育哲学」という、パッと聞いただけでは何をしているのかよくわからない学問だからだ。

すごそうとか、面白そうとか、難しそうとか、どちらかといえばポジティブに反応してもらうことが多いが、たまに失礼な人もいる。ここ最近で失礼ランキング圧倒的No.1を叩き出したのは、いきなり「これからはAIの時代だから、教育の研究なんて時代遅れじゃねえの?」と言ってきた、叔父の幼馴染だ。当然、そんなことはないと思っているから研究しているし、百歩譲って、こうした問いをぶつけることで話を引き出そうとしているとか、彼の中に教育とAIについて深い考えがあって問うてきているならわかるのだが—だとしても初対面だし言い方ってものがあるが—、そんな感じもなく、ただただ失礼なだけで対話になりそうになかったので、「そんなことはないですよ」と受け流した。

とはいえ、彼の発言は、「教育哲学」の現代的意義を示唆しているとともに、「教育学」の現代的課題をよく表している。教育哲学の一つの役割は、こうした問いに対して、「AIでは感じられない人のぬくもりが大事」のような感傷的で陳腐な解答に留まることなく、論理的に「そんな事はない、なぜなら…」と答えることなのである。

ところが近年の教育をめぐる議論は、「そんな事はない」と容易に言い切れられないような状況に陥っている。心理学を中心に、教育をめぐるさまざまな要素を定量的に測定することを 目指すものが研究の主流を占め、現場は現場で、「エビデンス」の名の下に実践を正当化することで説明責任を果たそうとする動向が、こうした研究への需要を後押ししている。それは突き詰めれば、「教育はAIで補完できるのではないか」という問いに、必ずしも「そんな事はない」と言いきれないなんなら「その何が悪いんですか」とさえ言い出しそうな、そんな予感を孕んでいる。

教育哲学は、こうした議論の状況そのものを問い直すことを射程としている。その方法は、一言でいえば「当たり前を疑うこと」である。例えば「子ども」、「学校」、「性別」、「学力」など、教育を取り巻くさまざまな概念を用いて私たちは教育を語る。これらの概念は、必ずしも不変・普遍的なものではない。時代や地域、そして思想やイデオロギーと密接に関わっている。だが、日常的な教育をめぐる会話で、いちいちこれらの概念の思想性が問われる事はない。私たちは教育を語るなかで、なんらかの思想やイデオロギーを遂行している。問題は、それが気がつかないうちに意図せぬ方向へ向かって、取り返しがつかなくなっていはいはしないか、ということだ。私の師の言葉を借りれば、**教育哲学の仕事は、「教育というものを見るときに、人が知らず知らずのうちに掛けてしまっている眼鏡をとり、点検すること」**によって、知らずのうちに教育という営みが奈落の底へと向かって落ちていくのを防ぐことなのである。

さて、自然文化誌研究会における実践も、もちろんそれが教育である以上、教育哲学的な考察の対象である。しかし、実際に冒険学校を運営するなかで、教育学的な何かを「疑う」という場面は、素朴には生じたとしても、それについて深く理論的に考察する機会は少ない。そこで、ナマステでの連載というこの機会に、教育哲学の地平から何が見えるか、私が関わったここ数年の自然文化誌研究会の実践(主に冒険学校)と絡めつつ、その眺望を少しでも示してみたい。

次号ではまず、「冒険学校」が「学校」という名を冠していることについて、考えてみたいと思う。

(次号に続く)

## たのしい村暮らし その2～おいしいきのこ編～

どうもはるこです。小菅村にきたとき、ここで楽しいことを見つけないと潰れてしまうと思って覚えた山菜採りときのご採りが今とても楽しいです！

9月から採って食べる用のInstagram アカウントをはじめました。フォローしてくれたキャンプに来てくれる学生の子から「はるちゃんガチだね、」と言われました。でもこれがわたしの日常で、今まで世に出してなかっただけです。少しでも村暮らしの楽しさが伝わったらいいな！



### 最近の小菅村

・10月より、西東京バス奥多摩駅発小菅村行きの「平日」直行便バスが無くなりました。「土日」は直行便が2本あります。よって平日は、小菅村営バスと乗り換えて小菅村に入るなど工夫が必要です。大月駅（猿橋駅）からの富士急バスは小菅の湯までの直行便があります。

### ○事務局の麗しき日々

- ・風馬が「まふゆのキャンプ」の村長に選ばれたもよう。
- ・ノリは卒論に取り組んでいるもよう、雲行きが怪しいもよう（邪推）。
- ・みややんを講師に、若手スタッフの間で麻雀講習会が開かれたもよう。

今回の「冒険学校まふゆのキャンプ」から、猿橋駅（大月駅）を集合解散場所に設定するかもしれません。「多摩川源流」をキーワードに、奥多摩駅から小河内ダムを通るのが「流域」という説明に適していたのですが・・・。

ということで、みなさまご承知おきください。

### ○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPOとして再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円

学生会員：3,000円 賛助会員(個人・団体)：10,000円

家族会員：6,000円 準特別維持会員：50,000円

特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員：1口1,000円から

・成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：店名 00八 普通口座

口座番号 9479450

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマス 156号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌  
＜発行日＞2024年11月10日  
＜編集＞自然文化誌研究会 事務局  
＜発行＞特定非営利活動法人

**自然文化誌研究会**  
The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2  
TEL：090-3334-5328（事務局 黒澤）  
E-mail：npo\_inch@yahoo.co.jp ←変更しています！！  
H P：http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html